

# 愛着スタイルと自己に対する攻撃性に関する研究

岡田楓華

指導教員 三船 恒裕

## 研究背景

愛着スタイルと他人への攻撃性を検討したものは存在するが、愛着スタイルと自己への攻撃性の関係を検討した研究は存在しない。しかし、愛着スタイルと自己志向的完全主義尺度、自己志向的完全主義尺度と自己への攻撃性の関連は見られている。そのため、本研究では愛着スタイルと自己への攻撃性は自己志向的完全主義尺度を媒介して関連があると仮定した。

## 研究目的

本研究では、愛着スタイルと自己への攻撃性との関連を検討することを目的とした。また、愛着スタイルと自己志向的完全主義尺度、自己への攻撃性と自己志向的完全主義尺度の関連を検討し、媒介するかどうかについても検討した。

## 研究方法

クアルトリクスを用いて質問を作成し、ランサーズで研究に参加者を募集した。参加者人数は210人であり、参加者内訳は男性が133人、女性が77人であった。愛着スタイルと自己志向的完全主義尺度、自己への攻撃性を測定する質問は先行研究と同様の質問を用いた。

## 分析結果

本研究では、愛着スタイル、自己への攻撃性、自己志向的完全主義尺度の関連を検討した。愛着スタイルは見捨てられ不安と親密性回避の2因子から4タイプに分類され、自己への攻撃性は身体的攻撃傾向と敵意の2因子が確認された。とらわれ型・恐れ型は安定型より自己への攻撃性が高かった。また、その関連はミスへのとらわれと行動疑念が部分的に媒介したが、高目標設置には媒介効果がみられなかった。

## 考察・結論

愛着スタイルと自己への攻撃性の関連は、行動疑念およびミスへのとらわれによって部分媒介されていたが、高目標設置には媒介効果が認められなかった。また、とらわれ型や恐れ型といった愛着が不安定なタイプでは、自己への身体的攻撃傾向や敵意が高い傾向が示された。これらの結果から、愛着が不安定な個人では、自己評価の不安定さや失敗への過敏さといった不適応的な完全主義傾向を通じて、自己への攻撃性が高まる可能性が示唆された。一方で、高目標設置については愛着の安定・不安定な個人が混在することで媒介効果が相殺された可能性があり、今後は下位尺度ごとに仮説を設定した精緻な検討が求められる。